

開講年度	令和3年度	開講期間	前期
科目名	統計学		
担当教員	東 秀孝		
学年	3年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データの形</li> <li>2. データの整理</li> <li>3. データの代表値</li> <li>4. データの散らばり</li> <li>5. 分散と標準偏差</li> <li>6. データの相関</li> <li>7. 確率</li> <li>8. 確率分布</li> <li>9. 統計的推理</li> <li>10. 2群の比較、カイ2乗検定</li> <li>11. 区間推定、相関係数の検定</li> <li>12. 回帰分析、分散分析</li> <li>13. エクセルを使用して演習問題</li> <li>14. エクセルを使用して演習問題</li> <li>15. エクセルを使用して演習問題</li> </ol>		
教科書	使用しない		
参考書	資料		
評価方法	出席状況、レポート提出、授業態度、筆記試験		
備考			

開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	理学療法評価学Ⅲ		
担当教員	三吉 舞子		
学年	3年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	正常な姿勢・動作についての理解をもとに、疾患特有の姿勢・動作についての知識と観察評価について学修する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 姿勢制御のバイオメカニクス①</li> <li>2. 姿勢制御のバイオメカニクス②</li> <li>3. 姿勢制御のバイオメカニクス③</li> <li>4. 姿勢制御のバイオメカニクス④</li> <li>5. 立ち上がり・着座の評価</li> <li>6. 立ち上がり・着座の評価・演習</li> <li>7. 寝返りの評価①</li> <li>8. 寝返りの評価②</li> <li>9. 起き上がりの評価①</li> <li>10. 起き上がりの評価②</li> <li>11. 歩行の評価①</li> <li>12. 歩行の評価②</li> <li>13. 歩行の評価③</li> <li>14. 歩行の評価④</li> <li>15. 歩行の評価⑤</li> </ol>		
教科書	『観察による歩行分析』【著】キルステン ゲッツ・ノイマン（医学書院） 『動作分析 臨床活用講座』【著】石井慎一郎（メジカルビュー社）		
参考書	適宜紹介する		
評価方法	レポート課題提出状況、筆記試験		
備考			

開講年度	令和3年度	開講期間	前期
科目名	神経筋障害理学療法		
担当教員	三吉 舞子		
学年	3年	学科	夜間部 理学
単位数	1単位	時間数	30時間
学習目標	1. 疾患別の病態、注意点、禁忌を学ぶ。 2. 疾患別の全体的な評価、理学療法の流れを学ぶ。		
授業計画	1. オリエンテーション 神経難病とは 2. 筋萎縮性側索硬化症 病態、評価、理学療法、留意点 3. 筋萎縮性側索硬化症 実技① 4. 筋萎縮性側索硬化症 実技② 5. パーキンソン病 病態、評価、理学療法、留意点 6. パーキンソン病 実技① 7. パーキンソン病 実技② 8. 脊髄小脳変性症 病態、評価、理学療法、留意点 9. 脊髄小脳変性症 実技 10. 筋ジストロフィー 病態、評価、理学療法、留意点 11. 多発性硬化症 病態、評価、理学療法、留意点 12. ギランバレー症候群 病態、評価、理学療法、留意点 13. 重症筋無力症 病態、評価、理学療法、留意点 14. ケーススタディー 15. 国家試験対策		
教科書	『系統理学療法学 神経障害系理学療法学』【著】丸山仁司（医歯薬出版）		
参考書	『理学療法テキスト神経障害理学療法学II（15レクチャーシリーズ）』【編】石川朗（中山書店）		
評価方法	筆記試験		
備考	実技の講義は上下ケーシーを着用してください。		

開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	内部障害理学療法		
担当教員	久保田 千代美		
学年	3年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	呼吸理学療法は、内科系疾患・外科系疾患、急性期・慢性期を問わず様々な患者が対象となる。運動と呼吸・循環反応を学び、呼吸に関する病態を適切に理解し、リハビリテーションの方針を決定するための、基本的な知識と理解を深める。また、呼吸理学療法における基本技術の方法や実際の徒手の手技を習得する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器系の解剖①</li> <li>2. 呼吸器系の解剖②</li> <li>3. 呼吸器系の生理学</li> <li>4. 呼吸機能の評価①</li> <li>5. 呼吸機能の評価②</li> <li>6. 呼吸器疾患(COPD)①</li> <li>7. 呼吸器疾患(COPD)②</li> <li>8. 間質性肺炎</li> <li>9. 外科術後の急性呼吸不全</li> <li>10. 肺炎</li> <li>11. 気管支喘息</li> <li>12. レントゲン</li> <li>13. 吸引</li> <li>14. 酸素療法(人工呼吸器)</li> <li>15. 国家試験対策</li> </ol>		
教科書	『ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション』【著】高橋哲也(羊土社)		
参考書	『病気が見えるvol.4(呼吸器)第3版』【編】医療情報科学研究所(メディックメディア) 『理学療法テキスト内部障害理学療法学 呼吸(15レクチャーシリーズ)』 【編】石川朗・玉木彰(中山書店)		
評価方法	筆記試験(前期試験と後期試験の合算で判定)、出席状況、授業態度		
備考	実技の際はTシャツなど薄手の上着を着用		

開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	脊椎・脊髄障害理学療法		
担当教員	植田 一輝		
学年	3年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	脊髄損傷に伴う病態とその障害を理解し、脊髄損傷に対するリハビリテーション全般を学び、社会復帰にむけた総合的な援助ができるようになることを目指す。 学習目標 1, 脊髄損傷のための機能解剖理解 2, 脊髄損傷の理学療法知識・治療技術習得 3, 脊髄損傷のリハビリテーション理解		
授業計画	オリエンテーション 1. 脊髄損傷の疫学・発生機序・損傷脊髄の病理学 2. 脊髄損傷者の心理(障害受容) 3. 脊髄損傷の評価(Impairment評価・フレネル分類・Zancolli分類・ASIAなど) 4. 脊髄不全損傷の理解のための機能解剖(神経伝導路) 5. 脊髄不全損傷の理解(前部型・後部型) 6. 脊髄不全損傷の理解(ブラウセカール型・中心型) 7. 合併症①(自律神経障害:起立性低血圧) 8. 合併症②(自律神経過反射・体温障害) 9. 合併症③(呼吸障害) 10. 合併症④(関節拘縮・異所性骨化) 11. 合併症⑤(褥瘡) 12. 合併症⑥(排泄障害) 13. 胸腰髄損傷者の松葉杖歩行(装具療法を含む)の理解 14. 胸腰髄損傷者の松葉杖歩行の演習 (杖処方と評価・転倒訓練・小振り・大振り・セップハイキング・階段昇降) 15. 国試対策		
教科書	『脊髄損傷 理学療法マニュアル』【編】岩崎 洋 (文光堂)		
参考書	『脊髄損傷マニュアルーリハビリマネージメントー』 【編】神奈川県リハビリテーション病院脊髄損傷マニュアル編集委員会 (医学書院) 『頸髄損傷者のための 自己管理支援ハンドブック』 【編】国立別府重度障害者センター頸髄損傷者自己管理支援委員会 (中央法規)		
評価方法	期末試験、課題への取り組み、出席状況によって総合的に評価する。		
備考	正常動作とは異なる頸髄損傷特有な基本動作を体感する中で、習得することが大切です。 知識のみの理解ではなく実践できる理学療法技術を身につけてください。 この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 理学療法士として総合病院のリハビリテーション業務に携わる(13年間)。		

開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	日常生活活動学		
担当教員	三吉 舞子		
学年	3年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	リハビリテーションを遂行するにあたり、対象者の活動レベルや能力の遂行状況を理解・整理してアプローチしていくことは必要不可欠なことである。本講では、日常生活活動をどのように評価していくのか、具体的な評価法、バーサルインデックスやFIM、その他の評価法を学び、また日常生活を遂行不可・困難にさせている原因を国際障害分類や国際生活機能分類で整理できるようにしていく。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション ADLの概念</li> <li>2. ADLとQOLおよび国際生活機能分離(ICF)・国際障害分類(ICIDH)①</li> <li>3. ADLとQOLおよび国際生活機能分離(ICF)・国際障害分類(ICIDH)②</li> <li>4. ADL評価法(1)BI①</li> <li>5. ADL評価法(2)BI② FIM①</li> <li>6. ADL評価法(3)FIM ②</li> <li>7. FIM演習</li> <li>8. ADL評価法(4)その他の評価法</li> <li>9. 床上動作・寝返り・起き上がりの介助</li> <li>10. 移乗動作の介助</li> <li>11. 移乗動作の誘導・介助法</li> <li>12. 歩行・階段昇降の誘導・介助法</li> <li>13. 基本的ADL①食事</li> <li>14. 基本的ADL②整容・更衣</li> <li>15. 基本的ADL③排泄・入浴</li> </ol>		
教科書	『PT・OTビジュアルテキスト ADL』【編】柴 喜崇 (羊土社) 『実践リハビリテーション・シリーズ 脳卒中の機能評価 SIASとFIM(基礎編)』 【著】千野直一 他 (金原出版株式会社)		
参考書	『シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト』【監】細田多穂 (南江堂)		
評価方法	期末試験・出席点・受講態度等。		
備考			

開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	理学療法技術論		
担当教員	江口 昌充		
学年	3年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	理学療法の基本的な治療技術を総合的に学習し、評価、治療技術について理解を深め、臨床上での評価方法、治療技術について演習を行う。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、運動療法総論</li> <li>2. 肩関節・肩甲帯の治療①</li> <li>3. 肩関節・肩甲帯の治療②</li> <li>4. 肩関節・肩甲帯の治療③</li> <li>5. 肩関節・肩甲帯の治療④</li> <li>6. 肩関節・肩甲帯の治療⑤</li> <li>7. 肩関節・肩甲帯の治療⑥</li> <li>8. 肘関節・前腕の治療①</li> <li>9. 肘関節・前腕の治療②</li> <li>10. 手関節・手指の治療①</li> <li>11. 手関節・手指の治療②</li> <li>12. 股関節の治療①</li> <li>13. 股関節の治療②</li> <li>14. 股関節の治療③</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書	配布資料		
参考書	『実践PTノート—運動器障害の理学療法』【著】小柳磨毅（三輪書店） 『SJF 関節ファシリテーション』【著】宇都宮初夫（丸善出版） 『ステップス・トゥー・フォロー』【著】Patricia M. Davies(シュプリングーフェアラー東京)		
評価方法	期末試験 授業態度		
備考	この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 理学療法士として一般病院のリハビリテーション業務に携わる(15年間)。		

開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	臨床実習前教育学		
担当教員	岩崎 圭佑 ・ 久保田 千代美		
学年	3年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	ケーススタディーを使用し、評価実習に必要な臨床思考過程や根拠に基づいた評価項目の選択、問題点の抽出を学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、情報収集</li> <li>2. 評価手順、日常生活活動の評価</li> <li>3. 評価内容抽出</li> <li>4. 評価実技</li> <li>5. 実習ノート(デイリーノート)、レポート作成について</li> <li>6. 統合と解釈</li> <li>7. 問題点抽出と目標設定</li> <li>8. 治療プログラムの立案</li> <li>9. 症例 病態理解</li> <li>10. 症例 評価内容抽出</li> <li>11. 症例 問題点抽出</li> <li>12. 症例 統合と解釈</li> <li>13. 症例 治療方法選択</li> <li>14. 実技練習</li> <li>15. 実技練習</li> </ol>		
教科書	『統合と解釈がよくわかる実践！理学療法評価学』【監】上杉雅之【編】西守隆		
参考書	『PT・OTのためのOSCE 臨床力が身につく実践テキスト』【編】金田嘉清 他(金原出版)		
評価方法	出席、出席態度、発表、提出物(期限が遅れる、内容が不十分等の場合は減点します)実技試験等		
備考	実習と同様のため、実習着は必ず着用。ケーシー着用しない者は授業の出席を認めません。講義の事前準備は必ず行うこと。学生間で協力し、技術練習に取り組むこと。この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 理学療法士としてリハビリテーション病院のリハビリテーション業務に携わる(13年間)。		



開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	地域理学療法学		
担当教員	伊吹 太郎		
学年	3年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	国家試験に向けての知識の向上、自己勉強法の確立を図る。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法国家試験対策①</li> <li>2. 理学療法国家試験対策②</li> <li>3. 理学療法国家試験対策③</li> <li>4. 理学療法国家試験対策④</li> <li>5. 理学療法国家試験対策⑤</li> <li>6. 理学療法国家試験対策⑥</li> <li>7. 理学療法国家試験対策⑦</li> <li>8. 理学療法国家試験対策⑧</li> <li>9. 理学療法国家試験対策⑨</li> <li>10. 理学療法国家試験対策⑩</li> <li>11. 理学療法国家試験対策⑪</li> <li>12. 理学療法国家試験対策⑫</li> <li>13. 理学療法国家試験対策⑬</li> <li>14. 理学療法国家試験対策⑭</li> <li>15. 理学療法国家試験対策⑮</li> </ol>		
教科書	1～3年次の教科書、配付資料およびそれに付随する関連図書などすべて		
参考書	『ポケットマスター PT/OT国試 必修ポイント PT実地問題 2019』（医歯薬出版） 『ポケットマスター PT/OT国試 必修ポイント 臨床医学 2019』（医歯薬出版） 『ポケットマスター PT/OT国試 必修ポイント 基礎理学 2019』（医歯薬出版）		
評価方法	出席状況、授業態度、筆記試験		
備考	この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 理学療法士として一般急性期病院のリハビリテーション業務に携わる(15年間)。		

開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	生活環境論		
担当教員	伊吹 太郎		
学年	3年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	生活環境の実践に関わる用語についての基礎的な理解をし、理学療法学の概念より身体的特性と物理的環境の両面に関する基本的な知識や技術を理解する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者・障がい者を取り巻く社会状況</li> <li>2. 福祉住環境と介護保険</li> <li>3. 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備</li> <li>4. 障がい者別にみた福祉住環境整備</li> <li>5. 障害のとらえ方と自立支援のあり方</li> <li>6. 高齢者に多い疾患別福祉住環境整備</li> <li>7. 障害別にみた福祉住環境整備</li> <li>8. 福祉住環境整備の進め方と関連職との連携</li> <li>9. 福祉住環境整備の実践的な進め方と必要な基礎知識</li> <li>10. 福祉住環境整備の共通基本技術</li> <li>11. 生活行為別福祉住環境整備の手法</li> <li>12. 福祉用具の意味と適応</li> <li>13. 生活行為動作の実践に伴う知識と福祉用具の活用</li> <li>14. 福祉住環境のための建築知識</li> <li>15. 国家試験対策</li> </ol>		
教科書	『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト』（東京商工会議所）		
参考書	『地域リハビリテーション原論』【著】大田仁史（医歯薬出版）		
評価方法	出席状況、課題、試験により総合的に評価する。		
備考			

開講年度	令和3年度	開講期間	前期
科目名	臨床評価実習(短期実習)		
担当教員	臨床実習指導者 教員		
学年	3年	学科	夜間部 理学
単位数	3単位	時間数	135時間
学習目標	<p>学生が将来、理学療法士としての役割と責任が果たせるように、臨床現場での対象者やリハスタッフ、その他の医療等関係者との関係を形成する重要な科目の一つであり、実習までに習得した知識・技術の実践の場として、さらに障がいを実体験する機会でもある。</p> <p>また理学療法士が行う治療を立案する上で重要な検査・測定等、評価のプロセスを理解する重要な機会でもある。</p>		
授業計画	<p>実習期間</p> <p>1期 2021年8月23日(月)      ~      2021年9月11日(土)</p> <p>2期 2021年8月30日(月)      ~      2021年9月18日(土)</p> <p style="text-align: center;">* 1期または2期のどちらかの期間</p>		
教科書	実習中は、これまで購入した教科書、参考書籍、講義資料等が必要である。		
参考書	実習指導者、教員等に必要な参考書籍、参考文献を確認すること。		
評価方法	実習指導者の評点、学内での報告、実習中のレポート、出席状況等を考慮し、評価する。		
備考	この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 実習地にて実務経験のある理学療法士に教わる。		